

伊賀市障がい者福祉計画策定のための
アンケート 調査結果報告書
【速報版】

令和2年1月

I 調査の概要

「第4次障がい者福祉計画」の策定にあたり、障がいのある人の生活状況や福祉サービスの利用状況、利用意向、意見などを把握し、計画策定の基礎資料することを目的に、令和元年11月～12月にアンケート調査を実施しました。

1. 調査の方法

①調査対象地域 伊賀市全域

②調査対象者

障がい者調査	令和元年11月1日現在、市内在住の18歳以上の身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者、自立支援医療受給者、サービス利用者の中から2,687人を無作為抽出
障がい児調査	令和元年11月1日現在、市内在住の18歳未満の身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者、自立支援医療受給者、サービス利用者の中から297人を無作為抽出
その他市民調査	令和元年11月1日現在、市内在住の障害者手帳を持たない16歳以上の市民の中から2,000人を無作為抽出

③調査期間 令和元年11月18日～令和元年12月6日

④調査方法 調査票による記入方式
郵送配布・郵送回収による郵送調査

2. サンプル数及び有効回収数

	A 配布数	B 不達 (宛先不明)	C (A-B) 有効 配布数	D 回収数	E 無効 回収数 (白票)	F (D-E) 有効 回収数	D/C 回収率	F/C 有効 回収率
障がい者	2,687	27	2,660	1,356	2	1,354	51.0%	50.9%
障がい児	297	1	296	120	0	120	40.5%	40.5%
その他市民	2,000	6	1,994	835	0	835	41.9%	41.9%

3. 注意事項

- ① 以下のページでは、「障がい者調査」を『障がい者』、「障がい児調査」を『障がい児』と表しています。
- ② 以下のページにおける比率の掲載については、小数点第2位で四捨五入していることから、合計が100.0%にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合の比率は、有効回答数に対する割合を表示しています。
- ③ 「無回答」は回答していないもの、「無効回答」は選ぶべき選択肢の数や答え方を間違っているなど、集計上有効でない回答を示しています。

グラフ及び表のN数 (number of case) は、有効標本数 (集計対象者総数) を表しています。設問中のSA (Single Answer) は単数回答、MA (Multi Answer) は複数回答をそれぞれ示しています。

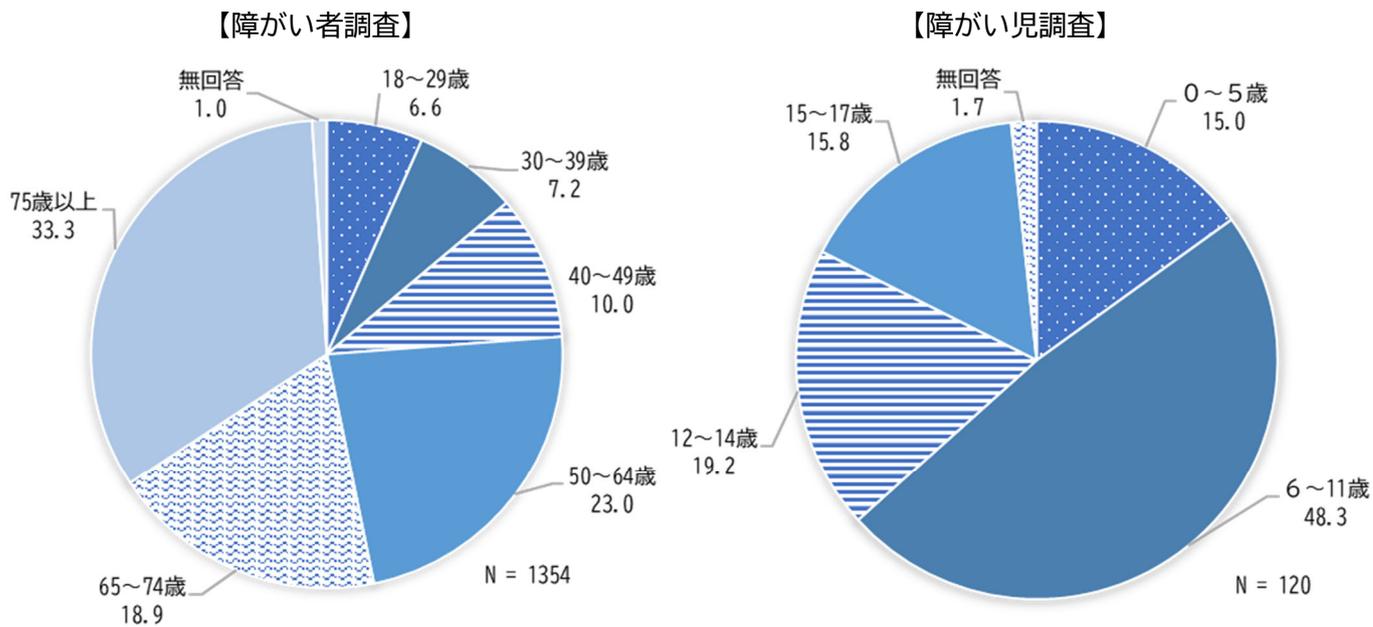
II 調査結果（抜粋）

目標Ⅰ 一人ひとりに応じた生活支援のしくみをつくる

回答者の属性等について

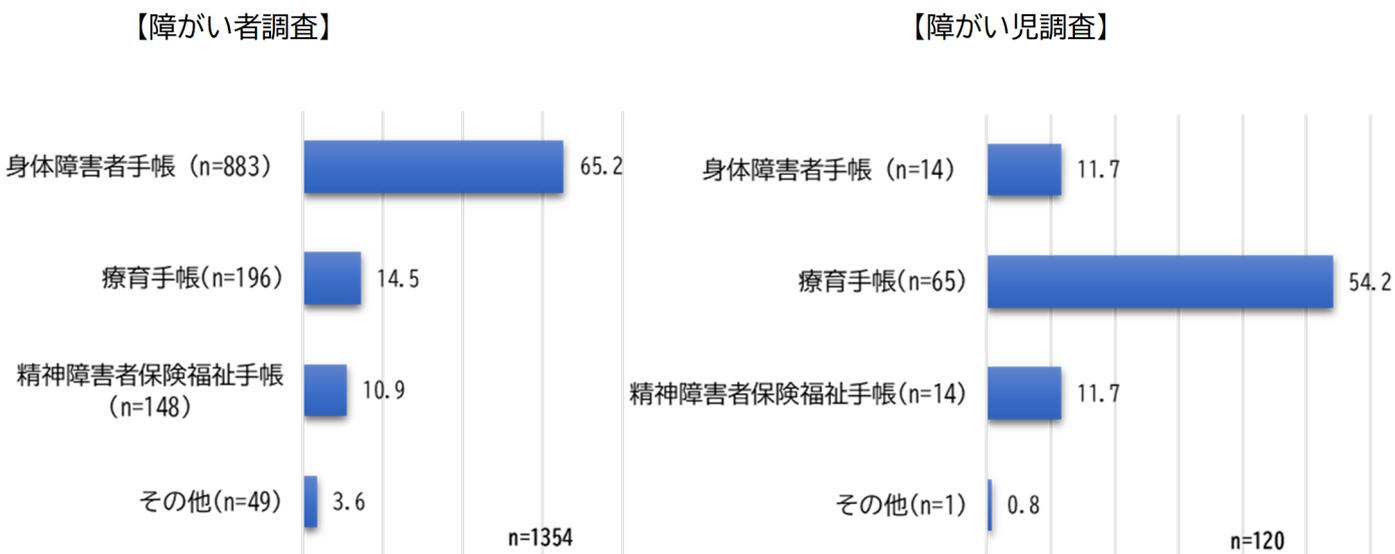
問 あなたの年齢は、令和元年11月1日現在、満何歳ですか。(SA)

『障がい者』問1 『障がい児』問1



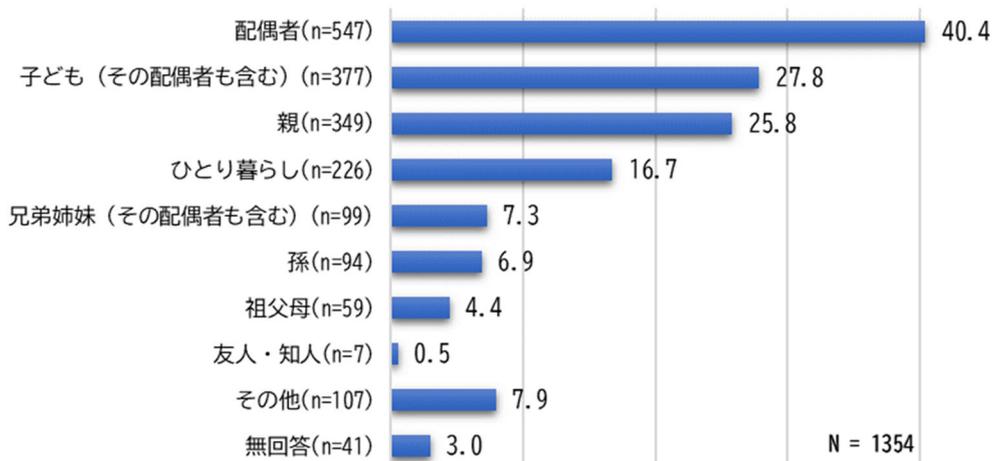
問 あなたの持っている障害者手帳の種別は次のどれですか。(MA)

『障がい者』問3 『障がい児』問3



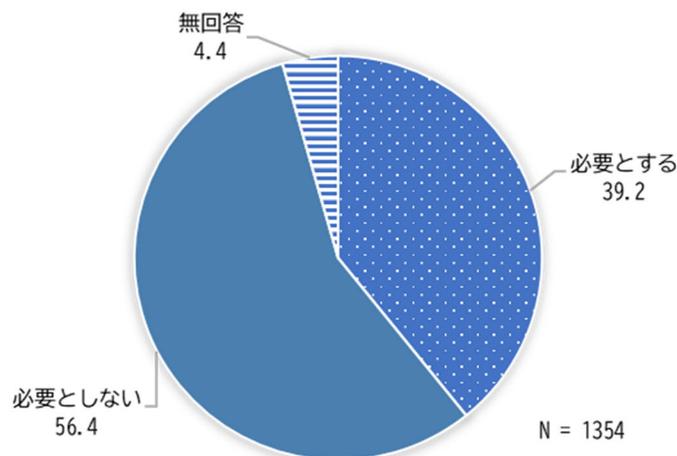
※障害者手帳の所持者数は、手帳の種類を2つ以上重複していても、種別ごとに1つとしてカウントしているため、その合計は有効回答数よりも多くなっています。

問 あなたは、現在だれと暮らしていますか。(MA) 『障がい者』問7

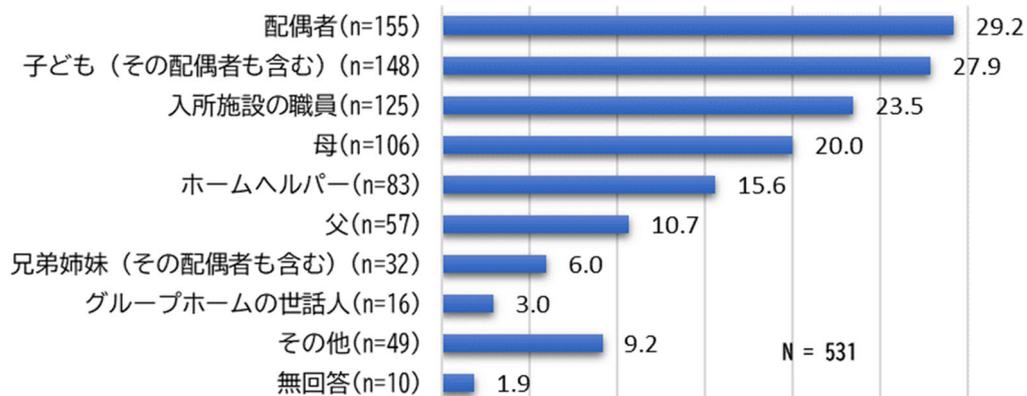


問 あなたは、日常生活の中で介護または介助を必要としますか。(MA)

『障がい者』問 14



問 あなたの介護・介助者はだれですか。(MA) 『障がい者』問 15

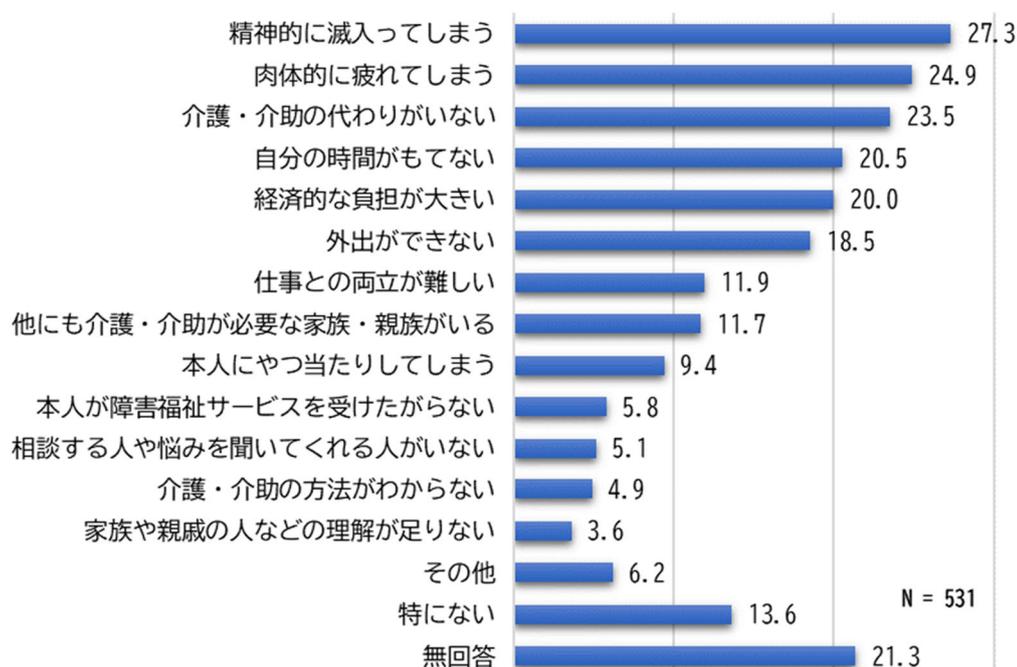


問 介護・介助者の方が、困っていることについて教えてください。(MA)

『障がい者』問 20

- 「障がい者」では『精神的に滅入ってしまう』が最も高く、これに『肉体的に疲れてしまう』『介護・介助の代わりにがない』『自分の時間がない』『経済的な負担が大きい』の順に高くなっています。介護・介助者に負担が集中していることがうかがえます。
- 障がい種別でみると、「身体」「知的」では『介護・介助の代わりにがない』が最も高く、「精神」では『肉体的に疲れてしまう』が最も高くなっています。また「精神」では『自分の時間がない』が他に比べて低く、1割をきっています。

【障がい者調査】

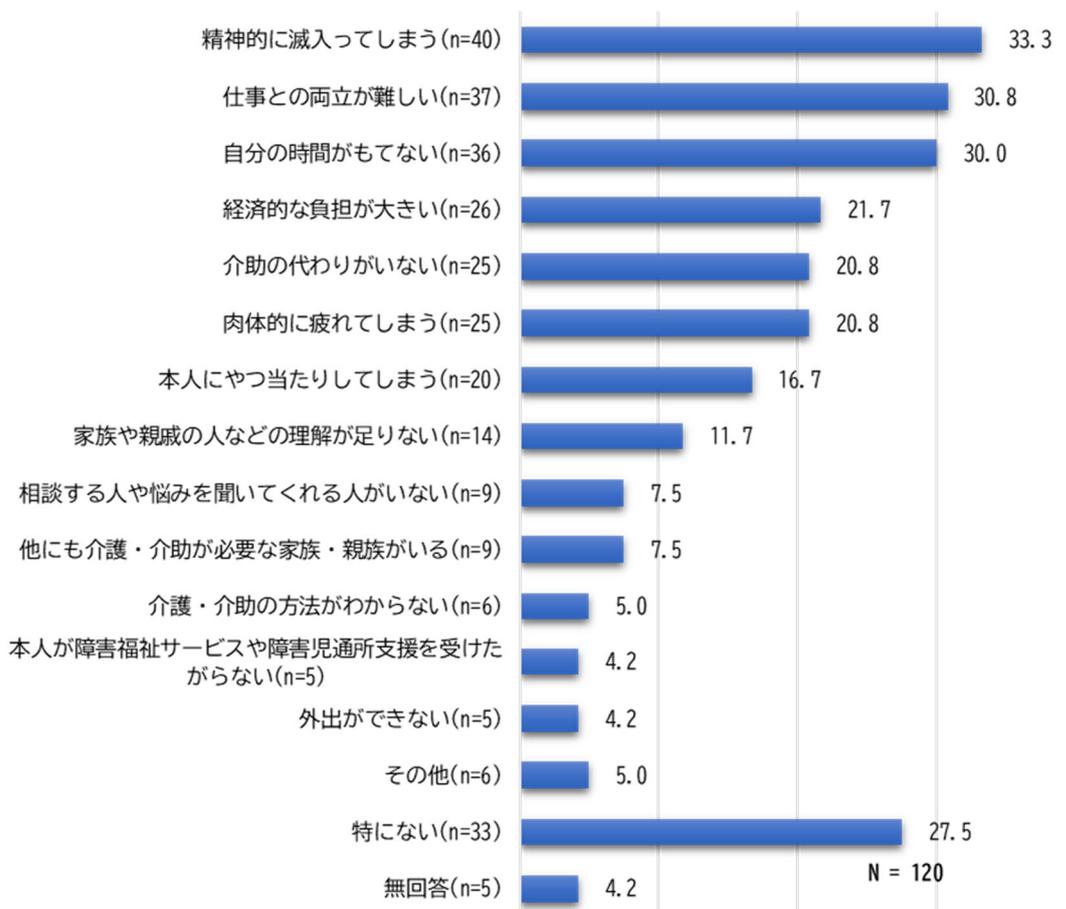


問 主に介護・介助される方が、困っていることについて教えてください。(MA)

『障がい児』問 8

- 「障がい児」では『精神的に滅入ってしまう』が最も高く、これに『仕事との両立が難しい』、『自分の時間がもてない』と続いています。
- 障がい種別でみると、「身体」、「知的」、「精神」とも『仕事との両立が難しい』が最も高くなっていますが、2番目に高いものは「身体」、「精神」では『経済的な負担が大きい』、「知的」では『自分の時間がもてない』となっています。

【障がい児調査】

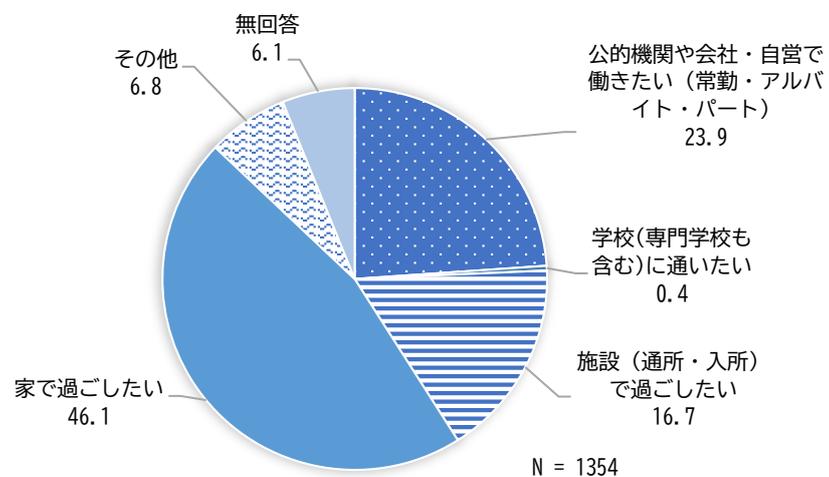


問 あなたは、今後、平日の昼間の時間をどのように過ごしてみたいと思いますか。(SA)

『障がい者』問 12

- 平日昼間の過ごし方についてみると、『家で過ごしたい』が5割弱で最も高く、これに『公的機関や会社・自営で働きたい（常勤・アルバイト・パート）』『施設（通所・入所）で過ごしたい』が続いています。
- 障がい種別でみると、「身体」「精神」では『家で過ごしたい』が、「知的」では『施設（通所・入所）で過ごしたい』が最も高くなっています。

【障がい者調査】



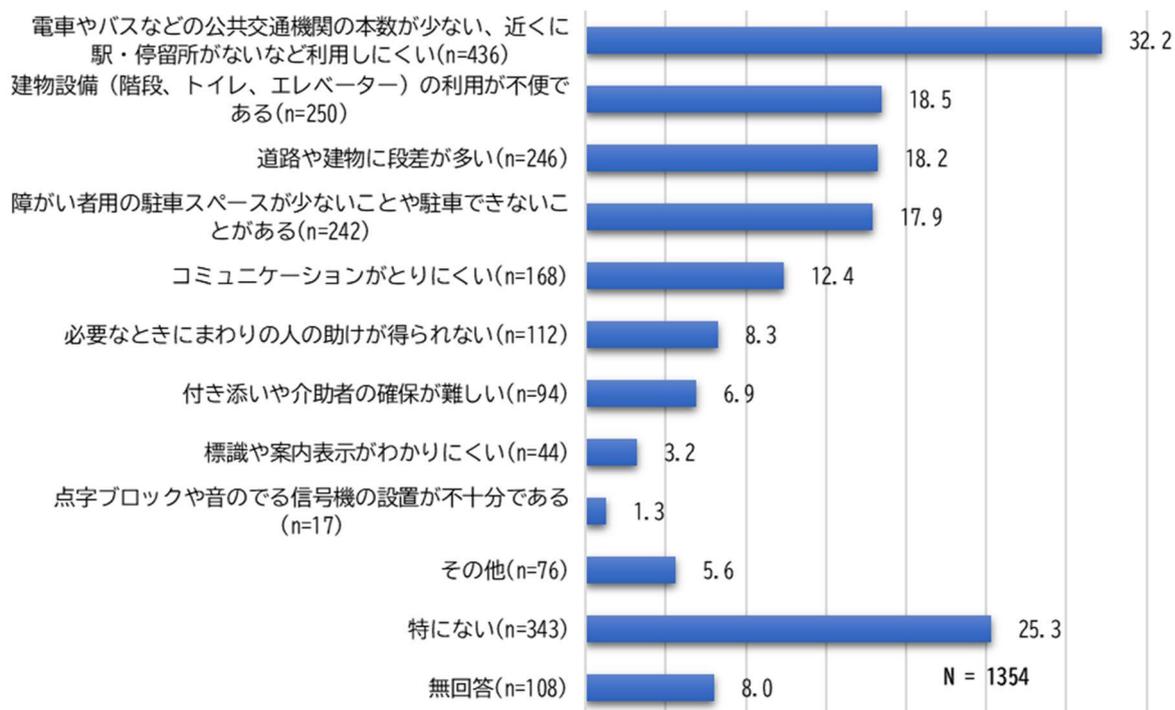
外出の状況について

問 あなたが外出する時に、困ることや不満に思うことは何ですか。(MA)

『障がい者』問 24

- 「障がい者」では『電車やバスなどの公共交通機関が、本数が少ない、近くに駅・停留所がないなど利用しにくい』が最も高く、『建物設備（階段、トイレ、エレベーター）の利用が不便である』、『道路や建物に段差が多い』と続いています。一方、『特にない』と答えた人も25.3%います。
- 障がい種別でみると、すべての種別において『電車やバスなどの公共交通機関が、本数が少ない、近くに駅・停留所がないなど利用しにくい』が最も高くなっています。次いで、「身体」「精神」では『特にない』、「知的」では『コミュニケーションがとりにくい』が高くなっています。

【障がい者調査】

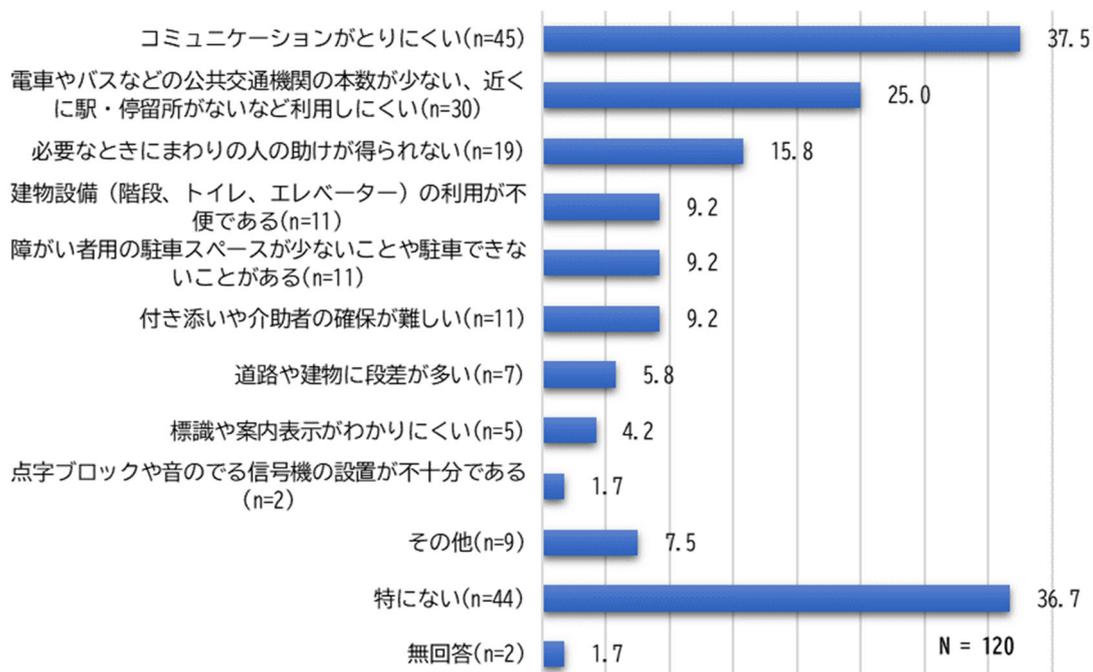


問 あなたが外出する時に、困ることや不満に思うことは何ですか。(MA)

『障がい児』問 12

- 「障がい児」では、『コミュニケーションがとりにくい』が最も高く、『電車やバスなどの公共交通機関が、本数が少ない、近くに駅・停留所がないなど利用しにくい』、『必要なときにまわりの人の助けが得られない』と続いています。
- 障がい種別でみると、「身体」では『建物設備（階段、トイレ、エレベーター）の利用が不便である』が、「知的」、「精神」では『コミュニケーションがとりにくい』がそれぞれ最も高くなっています。

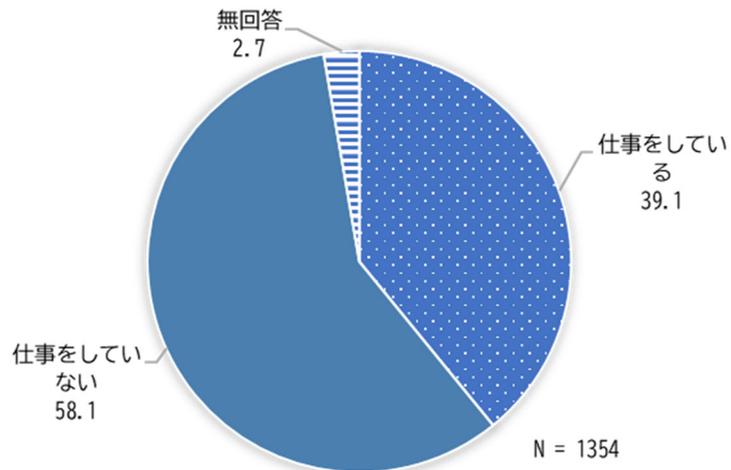
【障がい児調査】



就労の状況について1（障がい者調査のみ）

- 『仕事をしている』と答えた人は約4割弱に上っています。
- 障がい種別でみると、「身体」、「精神」では『仕事をしていない』の方が高くなっていますが、「知的」では『仕事をしている』の方が高くなっています。

問 あなたは現在、仕事をしていますか。(SA) 『障がい者』問26

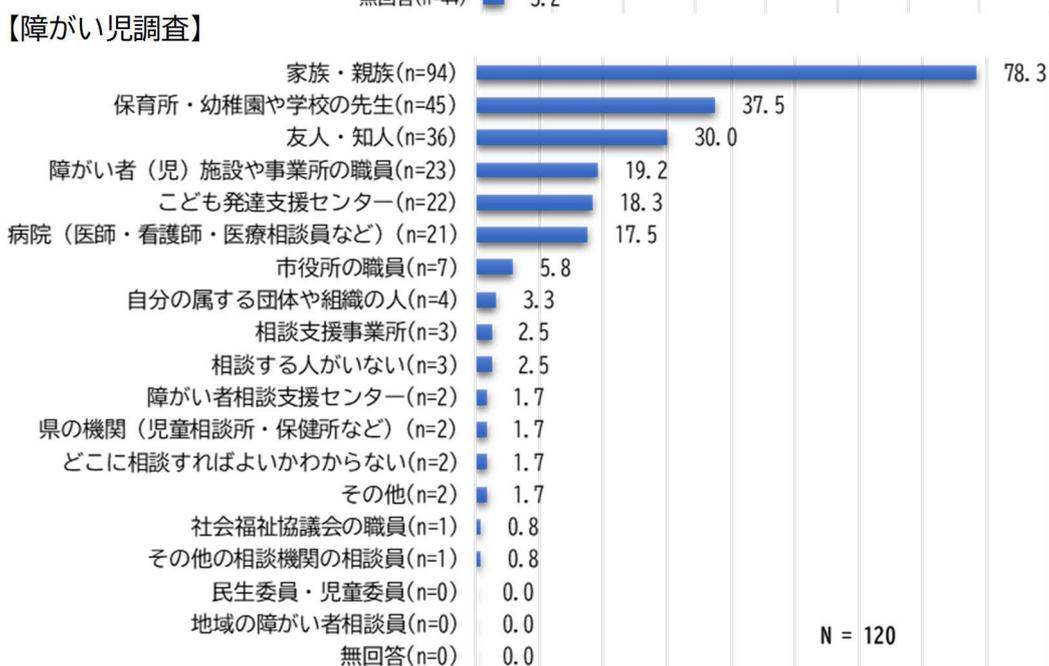


福祉サービスの情報や相談に関することについて

- 「障がい者」では、『家族・親族』が最も高く7割を超えています。次いで、『病院（医師・看護師・医療相談員など）』、『友人・知人』と続いています。障がい種別でみると、すべての種別で『家族・親族』が最も高くなっています。また、「身体」では『友人・知人』、『病院』、知的では、『障がい者施設や事業所の職員』、「精神」では『病院』と続いています。
- 「障がい児」では、『家族・親族』が最も高く、これに『保育所・幼稚園や学校の先生』、『友人・知人』と続いています。障がい種別でみると、すべての種別で『家族・親族』が最も高くなっています。

問 あなたは、困ったことや相談したいことがあるときに誰に相談されますか。(MA)

『障がい者』問 35 『障がい児』問 19

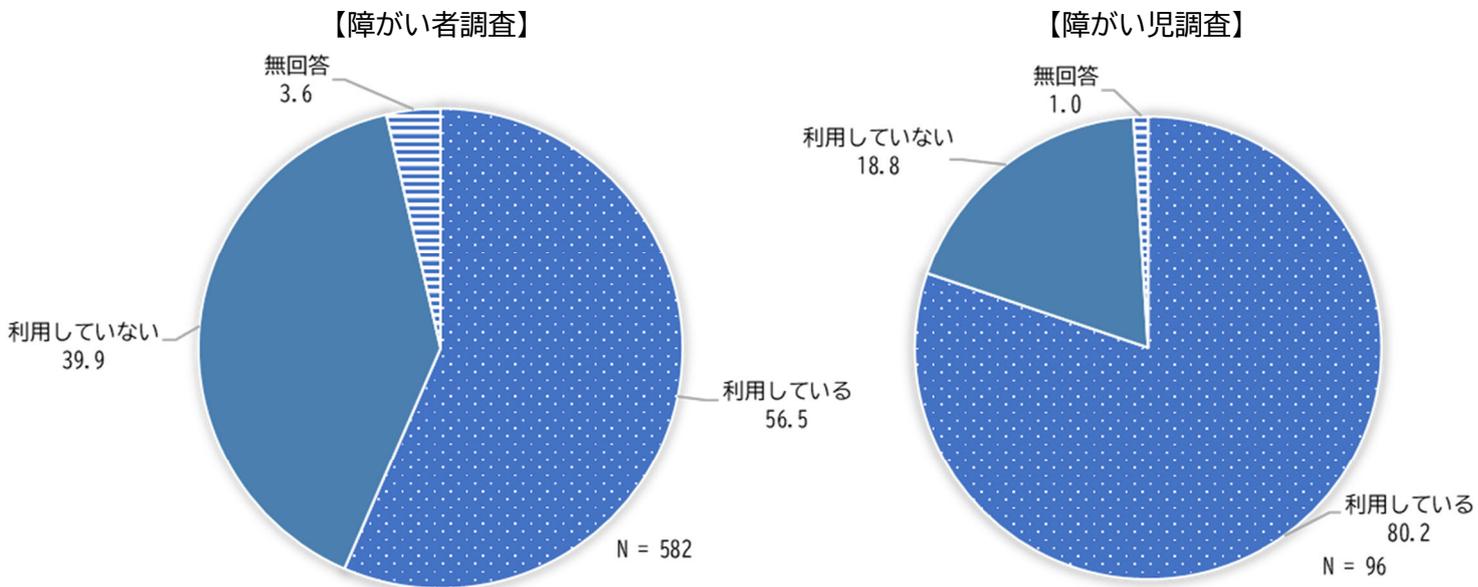


福祉サービスに関することについて

- 「障がい者」では、4割弱が『利用していない』と答えています。理由としては、約6割が『必要がない』が最も高く、これに『どのようなサービスがあるか知らないから』、『利用したい種類のサービスがないから』が続いています。
- 障がい種別で見ると、「身体」では『利用している』『利用していない』どちらも5割弱で拮抗しています。「知的」、「精神」では約7割が『利用している』と答えています。利用しない理由としては、「身体」では『必要ない』が突出して最も高くなっています。また、「知的」では、『必要ない』と並んで『どのようなサービスがあるか知らないから』が高くなっています。「精神」では、『利用の仕方やサービス内容がわからないから』『どのようなサービスがあるか知らないから』が同率で最も高くなっています。
- 「障がい児」では、2割弱が『利用していない』と答えています。理由として、約7割強が『必要がない』を選び、最も高くなっています。
- 障がい種別で見ると、利用していない理由として、いずれも『必要がない』が最も高くなっています。

問 あなたは、(障害児通所支援及び)障害福祉サービスを利用していますか。(SA)

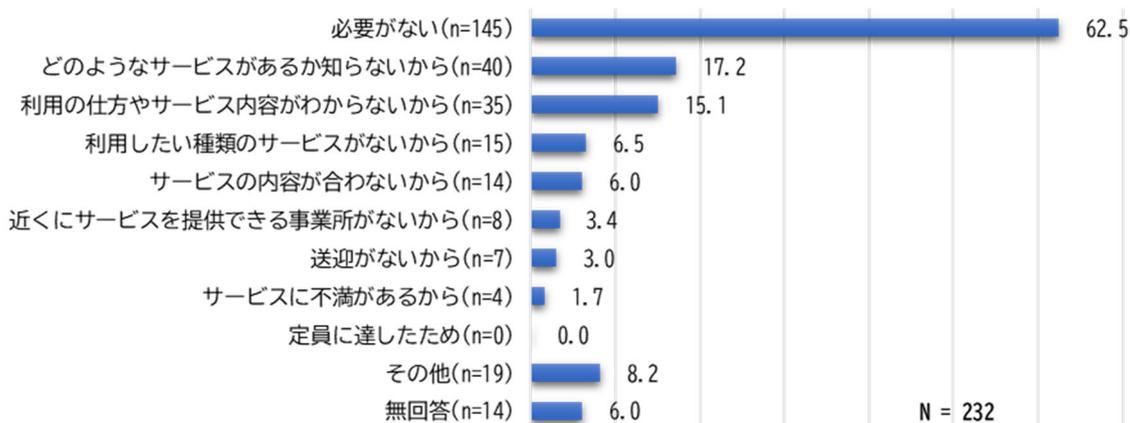
『障がい者』問 38 『障がい児』問 22



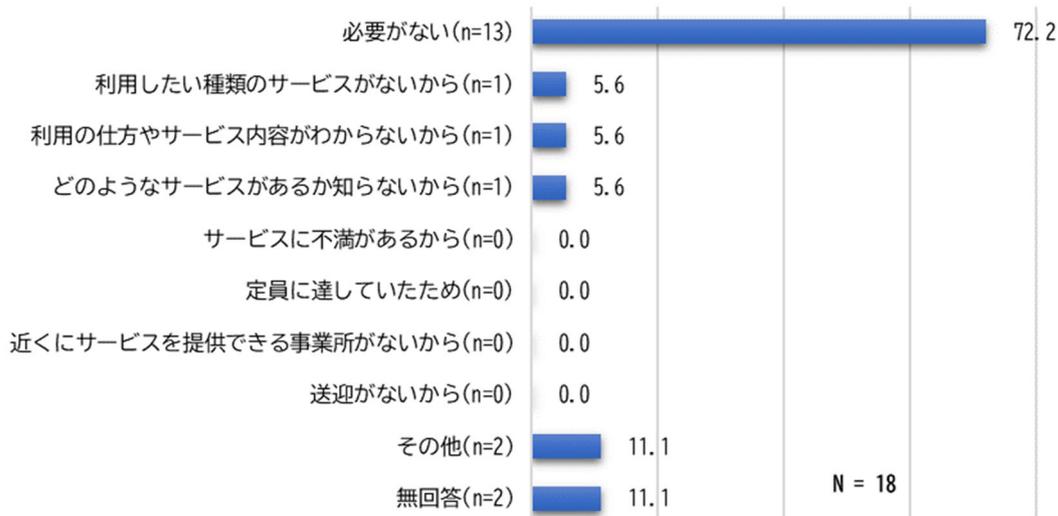
問 なぜ障害児通所支援または障害福祉サービスを利用していないのですか。(MA)

『障がい者』問 40 『障がい児』問 23

【障がい者調査】



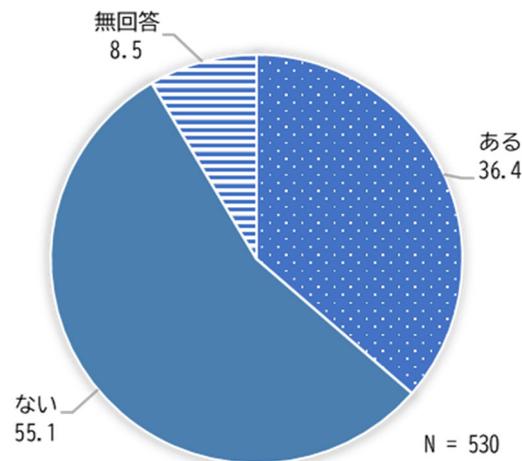
【障がい児調査】



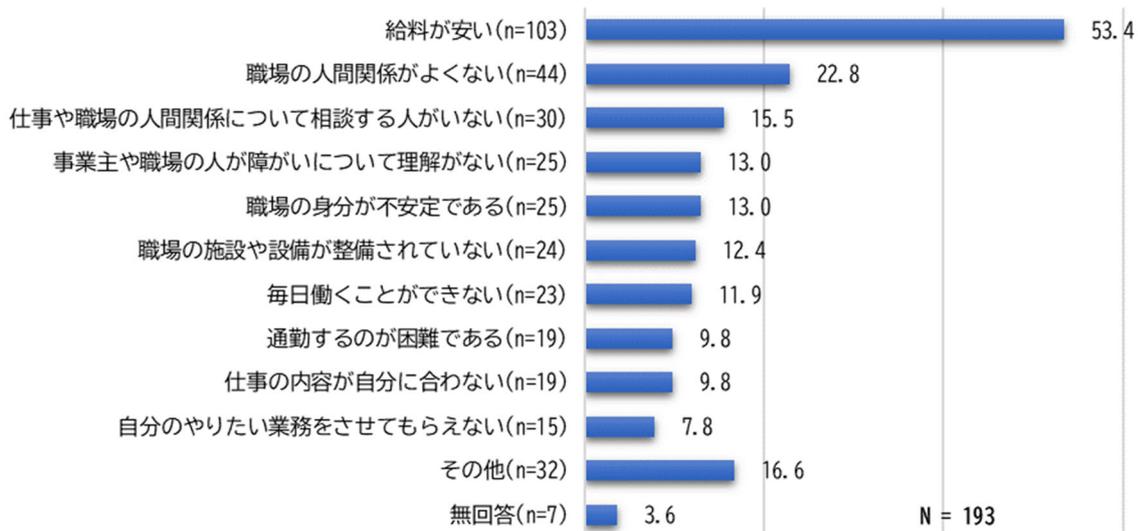
就労の状況について2（障がい者調査のみ）

- 現在の仕事について不安や不満が『ある』と答えた人は約4割弱となっています。そのうち、5割以上が『給料が安い』と答え、次いで、『職場の人間関係がよくない』と続いています。
- 障がい種別でみると、『ある』と回答した人は「精神」「知的」「身体」の順に高くなっており、特に「精神」では、およそ5割弱の人が「ある」と回答しています。不安・不満の内容はすべての種別で『給料が安い』が最も高くなっています。また、「知的」「精神」では『職場の人間関係がよくない』が上位を占めています。

問 あなたは、現在の仕事について不安や不満がありますか。(SA) 『障がい者』問30



問 それは、どのような不安・不満ですか。(MA) 『障がい者』問31

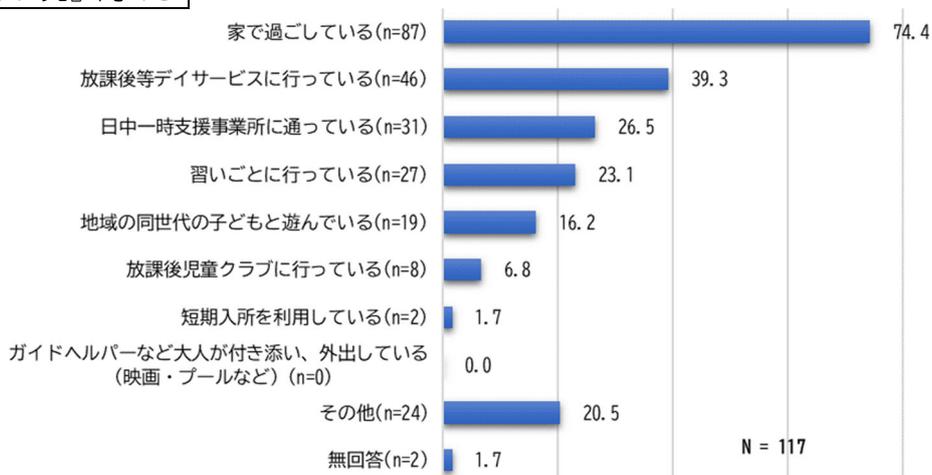


通園・通学に関することについて（障がい児調査のみ）

- 現在の長期休業中や放課後の過ごし方については、約8割弱が『家で過ごしている』と答えています。障がい種別でみると、いずれも『家で過ごしている』と答えた人が7割以上で最も高く、これに『放課後等デイサービスに行っている』が続いています。
- 長期休業中や放課後の活動の希望については、6割弱が『家で過ごしたい』と答え、これに『放課後等デイサービスに行っている』『地域の同世代の子どもと遊びたい』が3割弱で続いています。

問 あなたは、現在、長期休業中や放課後をどのように過ごしていますか。(MA)

『障がい児』問 16



問 あなたは、長期休業中や放課後の活動について、どのように過ごしたいと希望していますか。(MA) 『障がい児』問 17



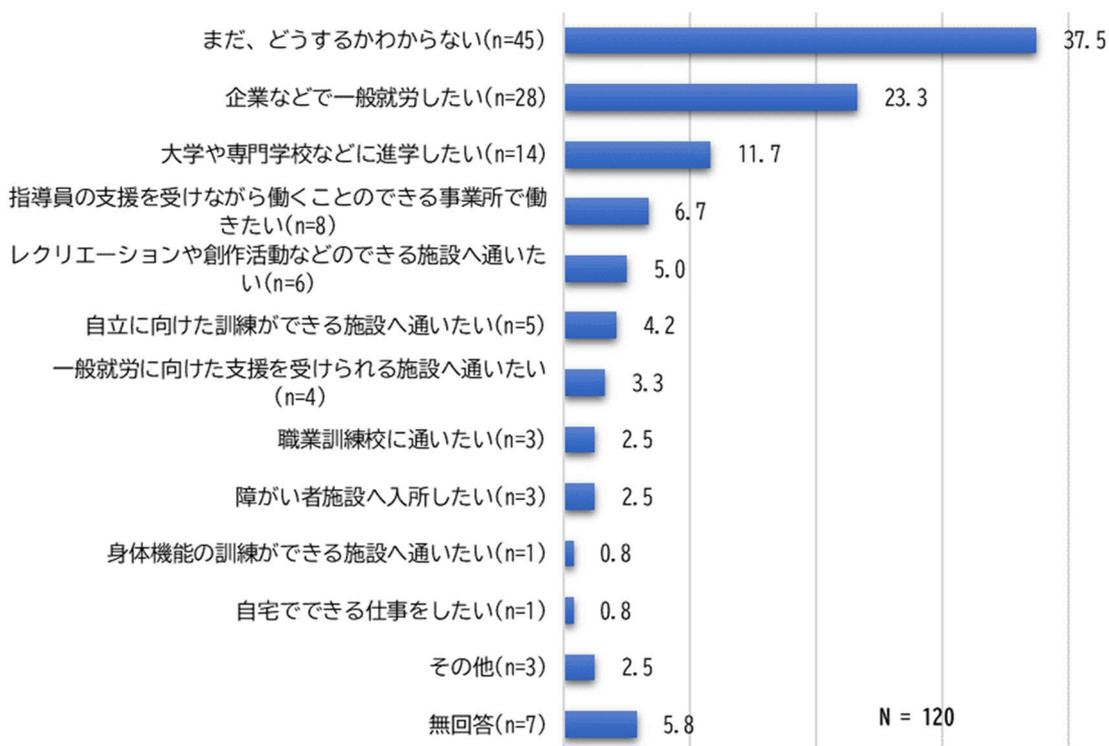
将来の進路について

- 『まだ、どうするかわからない』が最も高く、これに『企業などで一般就労したい』、『大学や専門学校などに進学したい』が続いています。障がい種別でみると、「身体」「知的」では『まだ、どうするかわからない』が最も高く、「精神」では『大学や専門学校などに進学したい』が最も高くなっています。

問 あなたは、将来(学校卒業後)の進路は、どのようにしたいと考えていますか。(MA)

『障がい児』問37

【障がい児調査】



将来の暮らしや必要な障がい者施策について

- 「障がい者」では『障がいのある人のための各種手当の充実、医療費の軽減』が最も高く、これに『障がいのある人への理解を深める福祉教育や広報活動の充実』、『生活介護やデイサービスなどの日中活動のためのサービスの充実』と続いています。障がい種別でみると、「身体」、「精神」では『障がいのある人のための各種手当の充実、医療費の軽減』が最も高く、「知的」では『障がいのある人ための入所施設の整備』が最も高くなっていますが、僅差で『短期入所などの在宅福祉サービスの充実』『生活介護やデイサービスなどの日中活動のためのサービスの充実』『ケア付き住宅やグループホームなどの住まいの確保』が続いています。
- 「障がい児」では、『障がい児療育、教育の充実』が最も高く、これに『障がいのある人のための各種手当の充実、医療費の軽減』、『障がいのある人への理解を深める福祉教育や広報活動の充実』と続いています。

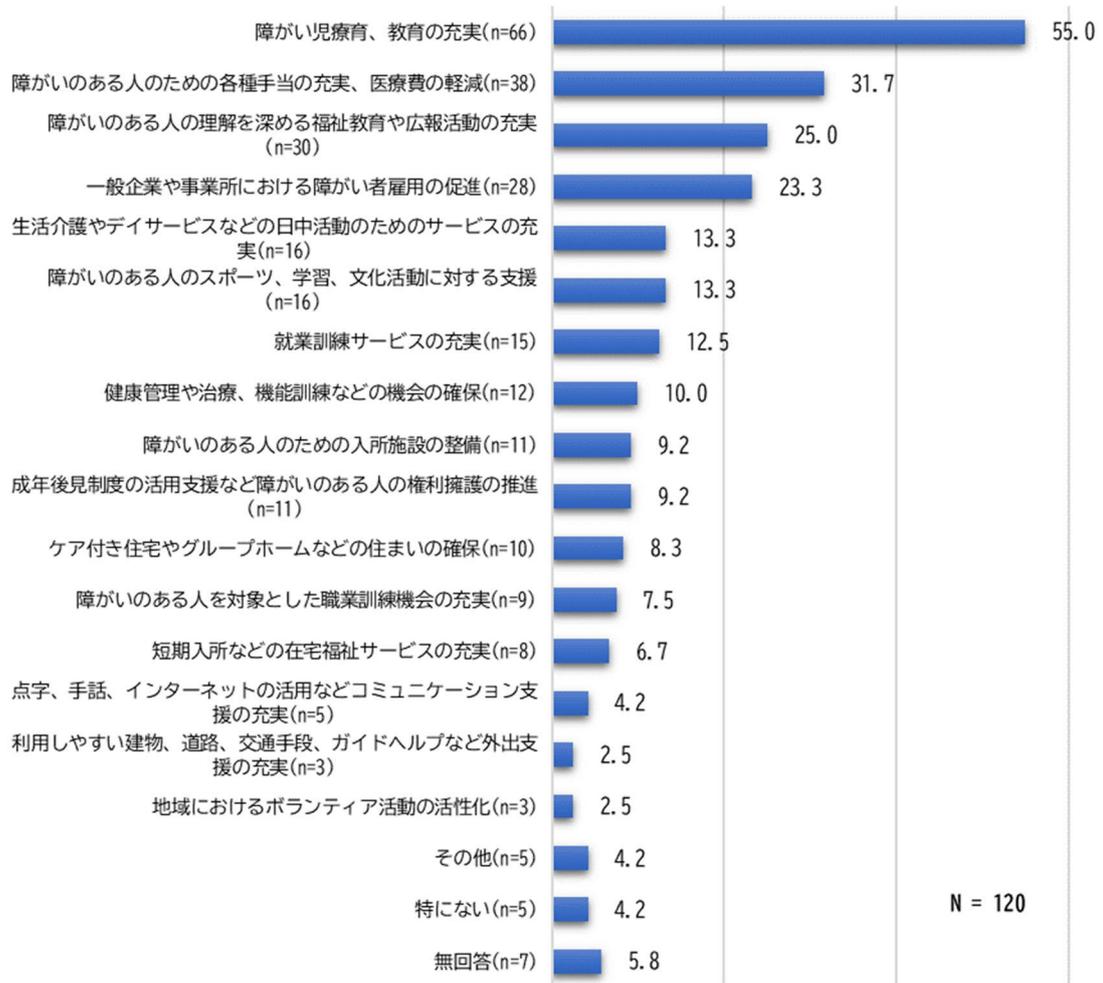
問 あなたは、今後伊賀市が障がい者施策を充実させるため、どのようなことに力を入れていく必要があると思いますか。(MA)

『障がい者』問 57 『障がい児』問 39

【障がい者調査】



【障がい児調査】

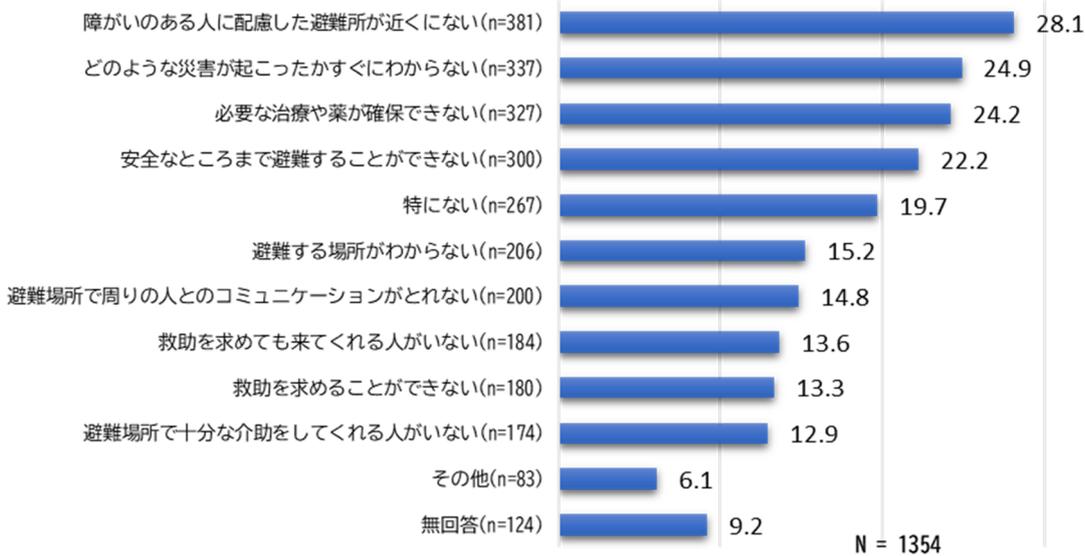


災害時のことについて

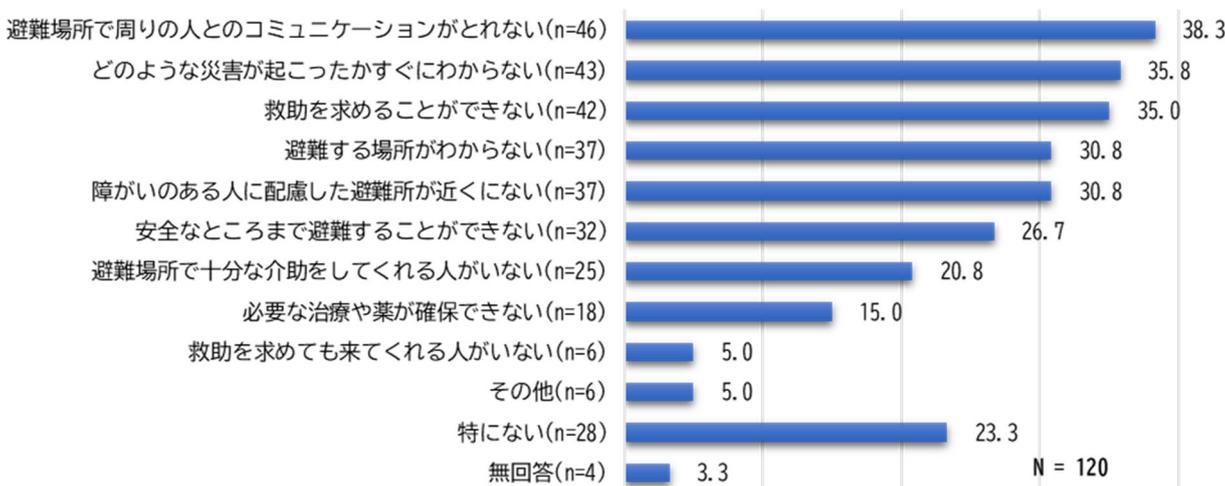
- 「障がい者」では、『障がいのある人に配慮した避難所が近くにない』が3割弱で最も高く、これに『どのような災害が起こったかすぐにわからない』、『必要な治療や薬が確保できない』、『安全なところまで避難することができない』が続いています。
- 障がい種別で見ると、「身体」では『必要な治療や薬が確保できない』が、「知的」では『どのような災害が起こったかすぐにわからない』が、「精神」で『必要な治療や薬が確保できない』がそれぞれ最も高くなっています。

問 火事や地震などの災害が発生したときに、あなたはどのようなことが不安ですか。
 (MA) 『障がい者』問 44 障がい児 26

【障がい者調査】



【障がい児調査】



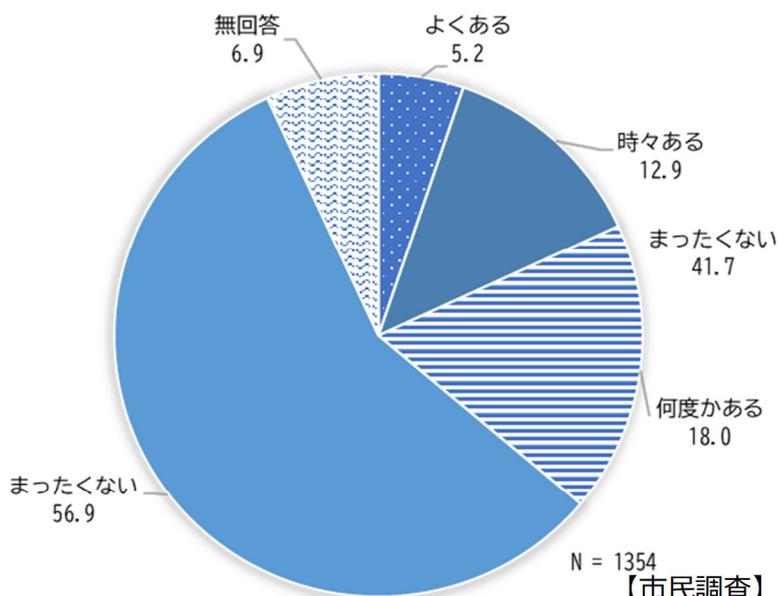
障がいのある人への正しい理解について

問 あなたは、日常生活で、障がいがあるために差別を受けたり、いやな思いをしたことがありますか。(SA)

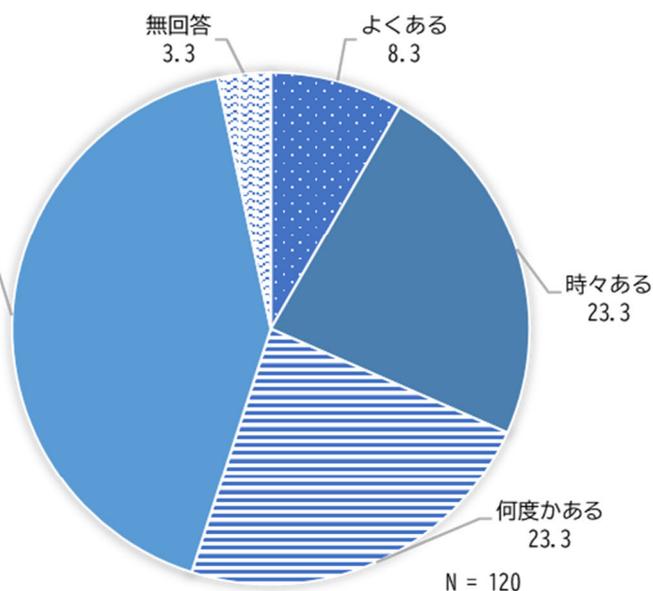
『障がい者』問50 『障がい児』問32 『市民』問20

- 「障がい者」では、『よくある』、『時々ある』、『何度かある』を合わせると、『差別を受けたり、いやな思いをしたことがある人』は6割強となっています。障がい種別でみると、『差別を受けたり、いやな思いをしたことがある人』が「知的」、「精神」では共に6割弱に上っているのに対し、「身体」では3割弱となっています。
- 「障がい児」では、『よくある』、『時々ある』、『何度かある』を合わせると、『差別を受けたり、いやな思いをしたことがある人』が約7割に上っています。障がい種別でみると、「精神」では8割弱、「知的」では7割弱、「身体」では4割強となっています。
- 市民向けアンケートでは、『よくある』、『時々ある』、『何度かある』を合わせた回答は3割弱となっており、上記と対比してみると意識の差が鮮明です。

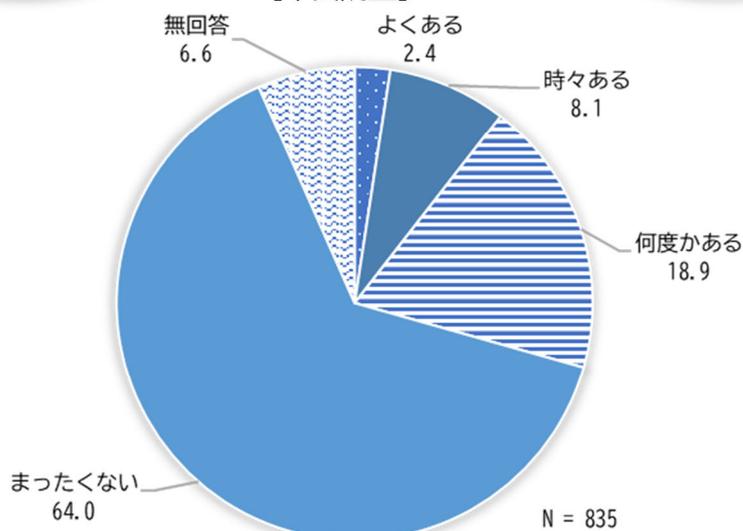
【障がい者調査】



【障がい児調査】



【市民調査】

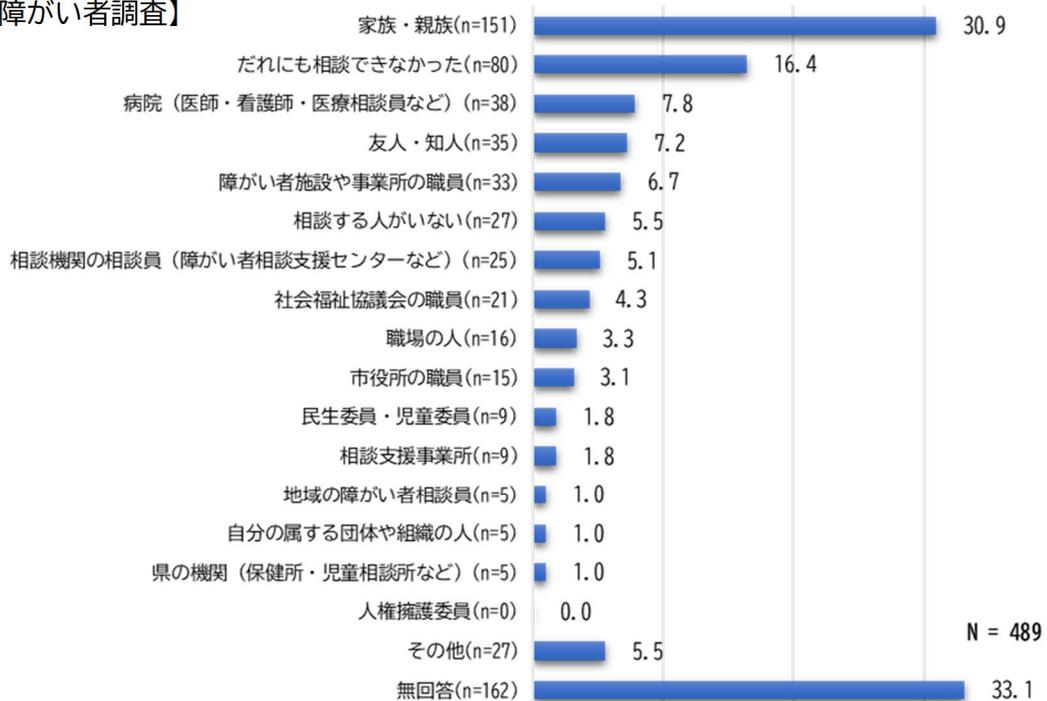


問 その時にだれに相談しましたか。(MA)

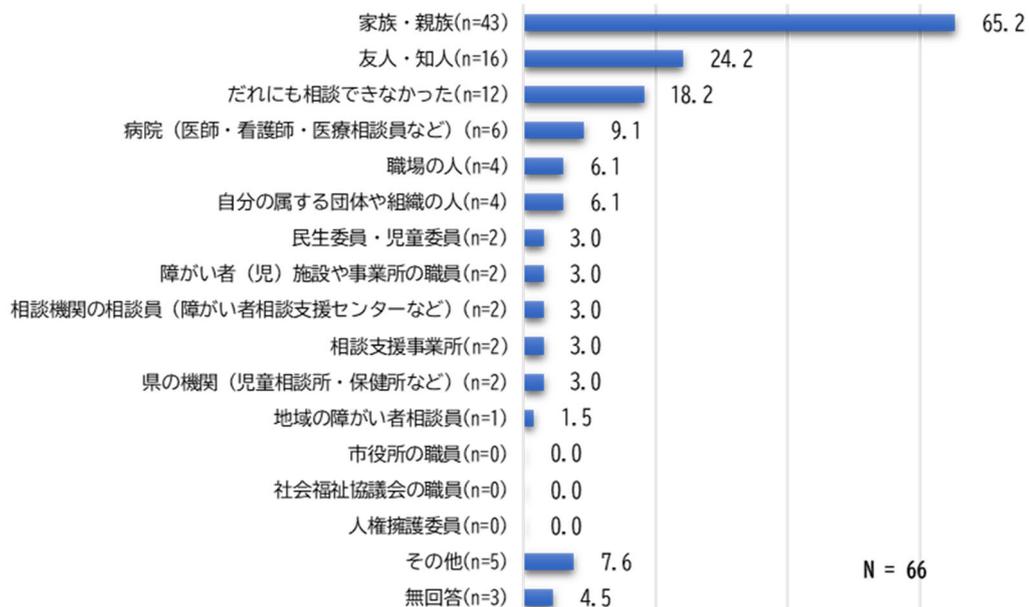
『障がい者』問 53 『障がい児』問 34

- 「障がい者」では、3割強が『家族・親族』という回答が最も高く、これに『だれにも相談できなかった』が続いています。また、『相談する人がいない』と答えた人も5%強いました。障がい種別でみると、「身体」、「知的」では2番目に、「精神」ではそれぞれ3番目に『だれにも相談できなかった』が高くなっています。
- 「障がい児」では、『家族・親族』が最も高く、これに『友人・知人』『だれにも相談できなかった』が続いています。障がい種別でみると、『だれにも相談できなかった』という回答は、「身体」、「精神」では3割強、「知的」では1割強となっています。

【障がい者調査】



【障がい児調査】



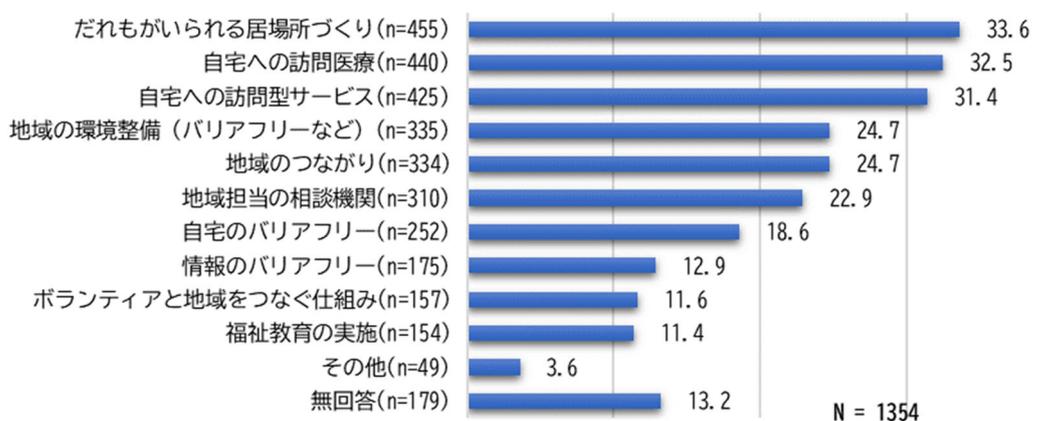
地域に必要なことについて

- 「障がい者」では『だれもがいられる居場所づくり』が最も高く、これに『自宅への訪問医療』、『自宅への訪問型サービス』が続いています。障がい種別でみると、「身体」では『自宅への訪問医療』が最も高く、「知的」、「精神」では『だれもがいられる居場所づくり』が最も高くなっています。
- 「障がい児」でも、『だれもがいられる居場所づくり』が最も高く、これに僅差で『福祉教育の実施』が続いています。

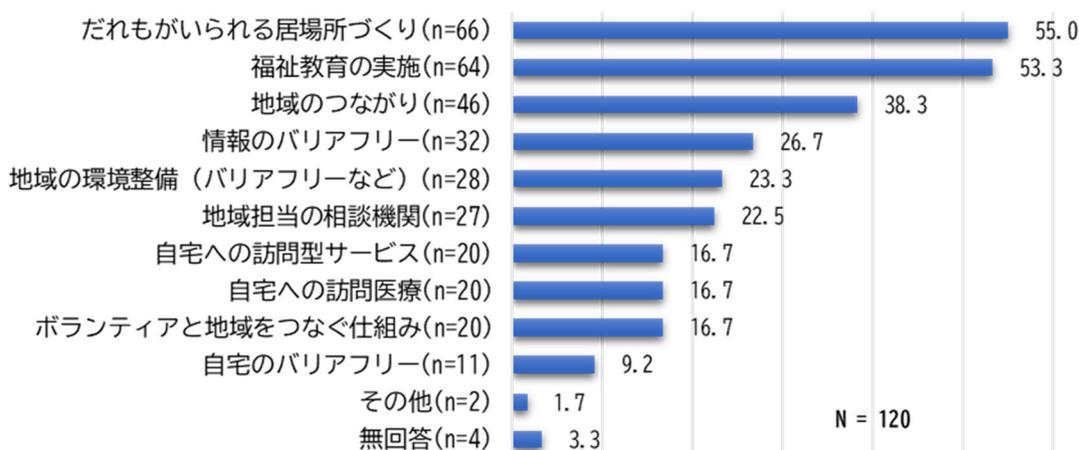
問 障がいのある人もない人もともに地域で暮らしていくためには地域に何が必要だと考えますか。(MA)

『障がい者』問 58 『障がい児』問 41

【障がい者調査】



【障がい児調査】



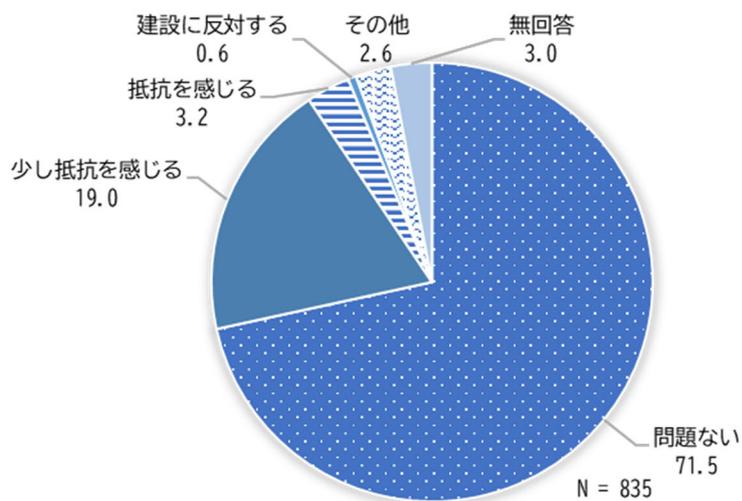
障がい者の施設について

- 「市民」に障がい者施設ができることへの感じ方を尋ねると、『問題ない』が7割強で最も高くなっています。これに対し『少し抵抗を感じる』『抵抗を感じる』『建設に反対する』を合わせた割合は2割強となっています。

問 もし、あなたの近所に障がい者の施設ができるとしたら、あなたはどう思いますか。
(SA)

『市民』問7

【市民調査】



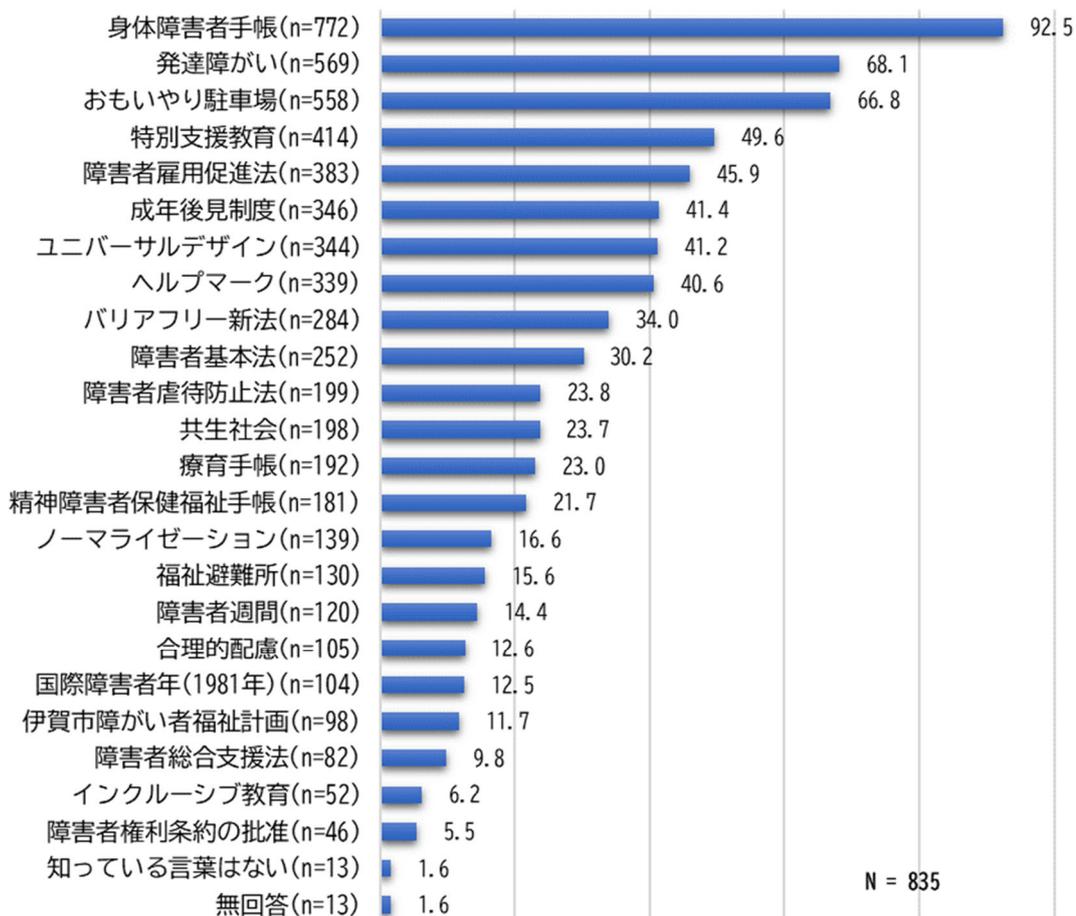
障がい者福祉用語の周知度について

- 障害者福祉に関わる用語のうち最も周知されていたのは、『身体障害者手帳』でした。これに『発達障がい』『おもいやり駐車場』が続いています。

問 障がい者福祉に関する言葉のうち、あなたが知っている言葉はどれですか。(MA)

『市民』問8

【市民調査】



障害者差別解消法の周知度について

- 障害者差別解消法について、その周知度を尋ねると、『知っている』という回答は2割強、『知らない』という回答は8割弱でした。

問 障害者差別解消法を知っていますか。(SA)

『市民』問19

【市民調査】

